

## 論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 2905 号	氏名	飯島堅太郎
論文審査担当者	主査 宮崎 章 教授 副査 中村 清吾 教授 副査 吉田 仁 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>エストロゲン、プロゲステロン、上皮成長因子に対する受容体発現のないトリプルネガティブ乳がん (TNBC) は受容体拮抗剤抵抗性の予後不良の疾患で、その抵抗性にはがん幹細胞とサイクリン依存性キナーゼ阻害タンパク質 p21 の関与が示唆される。近年、microRNA はタンパク発現を阻害する分子標的治療薬候補と目される。本研究では、TNBC 細胞株 MDA-MB-231 に含まれるがん幹細胞である CD44 陽性細胞 (CD44<sup>+</sup>) における各種抗がん剤曝露後の p21 の発現変化と microRNA の役割を検討した。cisplatin 曝露後、CD44<sup>+</sup> の p21 発現、グルタチオン酸化率、caspase-3 活性は CD44<sup>-</sup> に比較していずれも低下した。また、CD44<sup>+</sup> の microRNA (miR)-17、miR-93 発現はシスプラチンにより増加した。一方、CD44<sup>+</sup> の p21 発現は miR-17 阻害剤、miRNA-93 阻害剤により増加した。以上より、CD44<sup>+</sup> の cisplatin 抵抗性には、miR-17、miR-93 の発現上昇による p21 発現抑制が関与していることが示唆された。これらの新知見には学術的価値があると判断した。</p> <p>論文題名：ヒト乳がん細胞株 MDA-MB-231 の CD44 陽性細胞において microRNA-17, microRNA-93 は p21 発現を抑制する</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌 第 77 巻 第 3 号 2017 年 6 月掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)